

5-5 比内地域

(1) 地域の現況

地域の概要	
面積	205.32km ² 市全体の22%
人口	9,658人、市全体の13% ※2015(平成27)年国勢調査
世帯数	3,263世帯、市全体の12% ※2015(平成27)年国勢調査
15年間の人口増減	2,437人の減少(20%減) 2000(平成12)年12,095人から 2015(平成27)年9,658人へ ※国勢調査



地域を代表する主な施設等	
施設等	比内総合支所、比内公民館、比内体育館、比内図書館、道の駅ひない、大日神社、扇田神明社、地域包括支援センターひない、ひない温泉「比内のゆ」、比内福祉保健総合センター・ハートヒルとっと、比内地鶏糞処理施設
駅	扇田駅(JR花輪線)
医療施設	市立扇田病院
学校	扇田小学校、西館小学校、東館小学校、比内中学校、県立比内支援学校
工業団地	新館工業団地、小森山ミニ工業団地
公園緑地	達子森公園、ベニヤマ自然パーク、扇田地区米代川河川緑地、扇田ふれあい公園
景観	達子森、長者森、竜ヶ森

比内地域は、市南東部に位置し、南西側が北秋田市、東側が鹿角市に隣接する地域です。面積は205.32km²で、市全体の22%を占めています。

地域の北側には一級河川米代川が流れ、その支流である犀川が合流し、一部が用途地域に指定されています。南部は森吉山に続く広い山地に覆われて、東から西に向かって緩やかな傾斜となっています。

北部から南東部の犀川沿いに広がる平地が住宅地や農用地として利用されており、市街地には、医療施設や高齢者福祉施設、体育施設、道の駅ひない等の都市機能が充実しています。

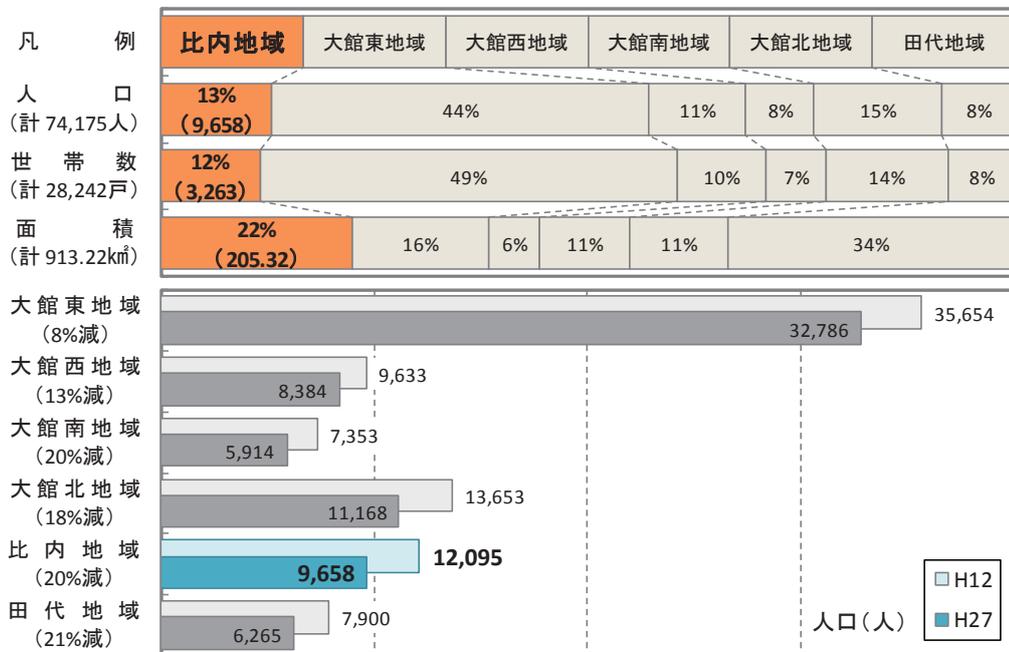
比内地鶏等の農産物や特産物は、全国に魅力を発信できる比内ブランドとして確立されています。

【土地利用】

- (主)比内田代線沿いに商店街が形成されており、地域の中心商業地となっています。古くは舟運の船着場として栄えていました。
- 中心商業地を取り巻くようにまとまった住宅地を形成しています。また、近年では市街地東部での住宅の新築が進行しています。
- 用途地域の南側に新館工業団地と小森山ミニ工業団地が立地しています。また、市街地東部の準工業地域は、利用可能な用地がある状況となっています。
- 農用地は南東部の犀川沿いに分布しており、稲作を中心に、野菜、ホップや葉たばこ等の栽培と比内地鶏等の飼育が行われています。

【人口・世帯】

- 人口 9,658 人で本市の 13%、世帯数 3,263 世帯で本市の 12%を占めており、1 世帯当たりの人員は 3.0 人となっています。
- 2000（平成 12）年からの人口減少率は約 20%であり、約 2,400 人減少しています。



資料：人口・世帯…2000（平成 12）年、2015（平成 27）年 国勢調査
面積…2014（平成 26）年 10 月 1 日 GIS・国土の情報（全国都道府市区町村の面積）
※端数の処理により、見かけ上の合計が 100%とならない場合があります。

【文化・風景・特産物】

- 旧比内町についてとりまとめた「比内の歴史」の発刊、大葛金山墓地の刈払い、西木戸神社のリーフレット作成・配布等、歴史的資源の活用と保存を進めています。
- 大日神社や扇田神明社、奥州藤原氏四代泰衡の妻をまつる西木戸神社等の歴史資源が存在し、歴まち散歩の実施やQRコード付き標柱の設置等、歴史を活かし、伝えるための取り組みを進めています。
- ひない盆まつり（灯籠流し・扇田盆踊り）、中野七夕、大日神社や扇田神明社の例祭等の伝統行事、多くの観光客を集める比内とりの市、ひない商人（あきんど）祭り等が行われています。

- 達子森や竜ヶ森、長者森は地域固有の景観を形成しており、達子森ではトイレや水飲み場等の管理、散策道の草刈りが実施され、身近な緑として親しまれています。
- 比内地鶏、G I（地理的表示）を取得した大館とんぶり、しいたけ、葉たばこ等、自然の恵みによって昔から発展してきた農業は、全国に魅力を発信できる比内ブランドとして確立しています。
- 希少な天然石である十和田石は、やすらぎの青を持つ環境石材としてさまざまな場面で活用されています。

【観光レクリエーション】

- 道の駅ひない、ひない温泉「比内のゆ」、南東部に位置する大葛温泉、大館カントリークラブ等が立地しています。
- 道の駅ひないは、地域の特産品販売を行う等、地域の交流拠点にもなっています。
- 比内地鶏グルメマップの作成や地域のイベント支援、来街者休憩スペース「ほっとひと駅」の運営支援等を通じて、商店街の活性化を図っています。
- 達子森公園やベニヤマ自然パーク、扇田地区米代川河川緑地等は、地域住民のレクリエーションの場として親しまれています。
- ペットと泊まれる宿泊施設として、ベニヤマ自然パークコテージが整備されています。

【主要公共施設】

- 北部の市街地に、医療施設や高齢者福祉施設、体育施設、道の駅ひない等の交流拠点が集積しています。
- 比内地鶏の鶏糞をたい肥化する大館市比内地鶏鶏糞処理施設が立地しています。

【交通基盤】

- JR花輪線が北部を横断し、扇田駅が立地しています。
- 秋田市と鹿角市をつなぐ国道285号が地域を横断し、主要幹線道路となっています。
- （主）比内大葛鹿角線が国道285号と南東地区・鹿角市と連結し、（一）比内森吉線が北秋田市とを結んでいます。また、北部の市街地を通過する（主）比内田代線が幹線道路となっています。
- 国道285号と二井田地区工業団地をつなぐアクセス道路が整備され、工業団地の有効活用が図られています。
- 扇田地区の都市計画道路は、整備率が低くなっています。

【まちづくり活動】

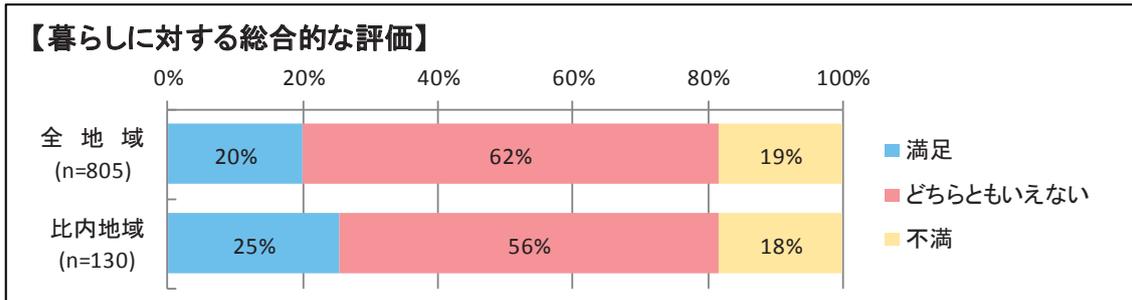
- 扇田・西館・東館小学校、比内中学校では、ふるさとキャリア教育の一環として、とんぶり栽培等の農業・職業体験、ふるさと集会や地域伝統芸能継承等の活動を行っています。
- 市民ワークショップでは、比内地域の暮らしやすさや豊かな農産物を活かしながら、市民が気軽に話せる場や、情報交換の機会を創出しようといった意見が出されています。
- 大葛地区の住民自らが地域の将来を考えるために設立された「大葛の将来を考える会」は、大葛温泉まつり等、地域を活気づけるため、自然や史跡等、地域資源を活用した

事業を行っています。

【市民アンケート】

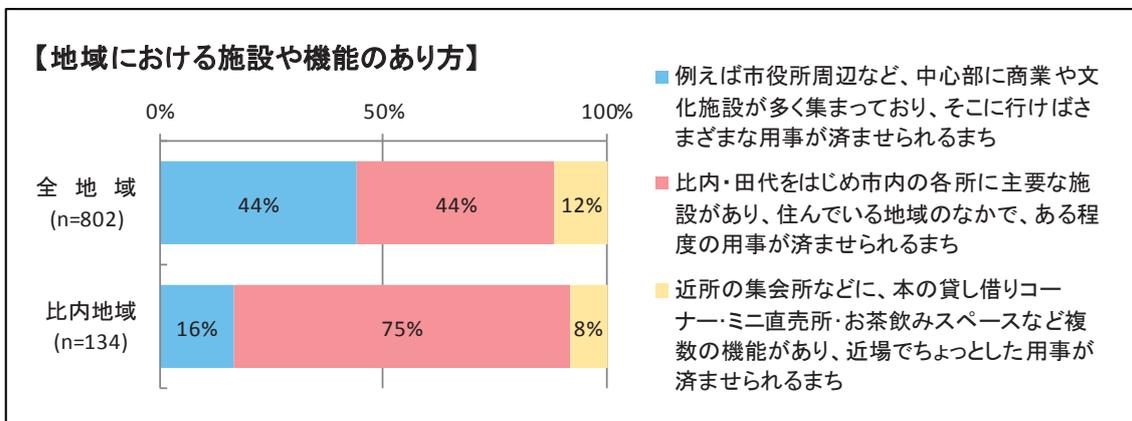
○市民アンケートのうち、全体の約16%が比内地域（扇田・西館・東館・大葛地区）に居住している方の回答となっています。市全体の結果と比較し、比内地域の回答の一部をとりまとめます。

○比内地域では、総合的な暮らしやすさに「満足」と回答する割合がやや高く、市内でも生活しやすい地域であることが分かります。「不満」と回答した割合は約2割で、市全体と類似した傾向となっています。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。

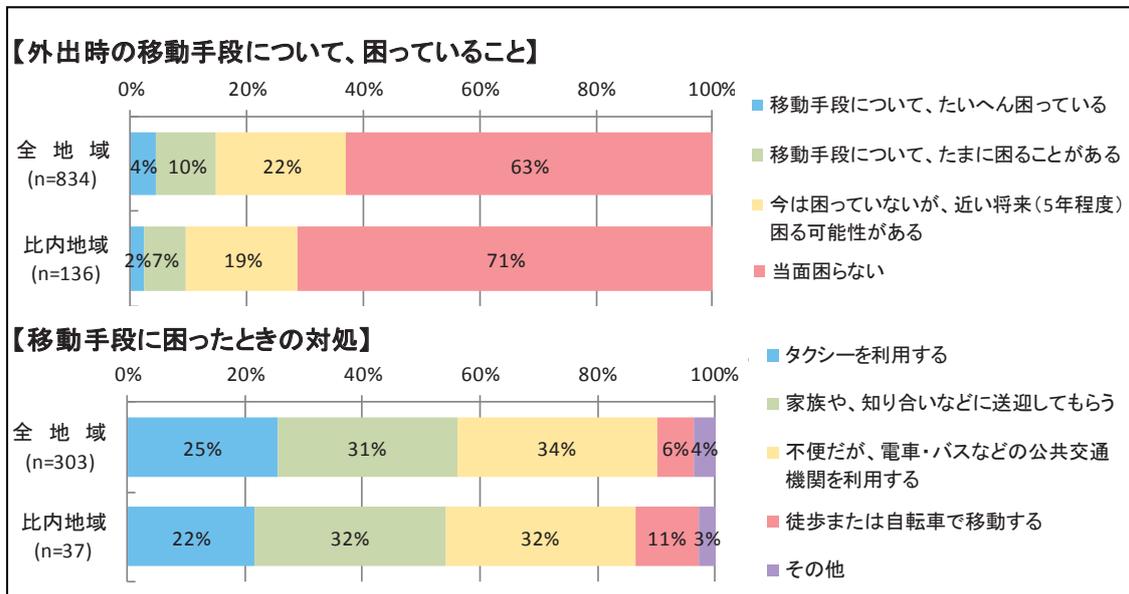
○地域における施設や機能のあり方について、「比内・田代をはじめ市内の各所に主要な施設があり、住んでいる地域のなかで、ある程度の用事が済ませられるまち」を目標したいと回答する方の割合が7割以上となり、市全体と比較して高くなっています。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。

○外出時の移動手段に困ることについて、市全体と比較して「当面困らない」と回答した方の割合が、10%程度高くなっています。

○移動手段に困ったときは「家族や知り合いの送迎」・「公共交通機関を利用する」という回答がそれぞれ約3割で、市全体と類似した傾向となっています。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。



写真 ひない商人まつり

(2) まちづくりの課題と方針

比内地鶏や大館とんぶり、しいたけ、葉たばこ等、大きな魅力を発信できる比内ブランドが確立されています。生活を支える商店街にはさまざまな店舗が立地し都市機能が充実しており、市民アンケートにおける暮らしやすさの評価も高い地域です。その一方、人口減少が進行する中で地域の活力を維持し続けることが課題となっています。

市民ワークショップでは、都市機能や資源が充実している特長を活かしながら、いつまでも比内地域に暮らし続けるために、人と人との交流をより活発に広げていきたいという意見が挙げられました。

このため、既存の施設や機能を有効活用し、豊かな資源をさらに発展させながら、交流の場づくりを進めていく必要があります。

これらを踏まえ、将来像を「確立したブランドと共に！ちょうどよく暮らし、人とつながるまち 比内」と掲げ、全体構想で定めた5つの柱のうち、地域に関連する4つの柱についてまちづくりに関する課題と方針をとりまとめます。

<比内地域が目指す姿の概要>

現況・課題			
【土地利用】	【地域の力】	【資源】	【機能】
<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能が充実。 ・人口減少による活力低下が懸念。 ・用途地域内の宅地化が進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参加する若者が減少。 ・郊外部の集落における日常生活サービスの確保等が懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた資源を活かした比内ブランドが確立。 ・交流人口の拡大が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通へアクセスしやすい環境が求められる。 ・都市計画道路の整備率の向上が求められる。

比内地域 将来像

確立したブランドと共に！
ちょうどよく暮らし、人とつながるまち 比内

まちづくりの方針

1	土地利用がもっと充実する	市街地の利便性を活かし、用途地域内の空き地を有効に利用することで、良好な住環境の整備を促進し、商業地における賑わいの維持・活性化を図ります。
2	もっと地域の力を活用する	行事やイベントを通して地域内外の交流を深めながら、住民主体の魅力ある地域づくりを推進します。
3	もっと資源をつなげる	歴史資源や自然環境の保全・活用を進めながら、比内ブランドであるさまざまな産業を推進し、比内地域の魅力を広く発信していきます。
4	もっと機能をつなげる	主要な公共交通を確保することで、都市機能へのアクセスを維持するとともに、都市計画道路の見直し・評価を行います。

＜4つの柱に基づくまちづくりの課題と方針＞

1 土地利用がもっと充実する

【課題】扇田地区の市街地はまとまって形成され、日常的な買い物の利便性は確保されているものの、将来的な人口減少による活力の低下が懸念されます。

【方針】

- 扇田地区の市街地については、商業振興策と連携しながら、住民が主体となった地域活動、まちなかの魅力回復や既存の都市基盤の活用により、賑わいある商業地として維持・活性化を図ります。
- まちなか居住に向け、狭あい道路の解消、除雪対策の促進、公共公益機能の確保等、高齢化社会に対応した基盤整備を推進します。

【課題】用途地域内の宅地化に合わせて、今後も計画的な住環境整備が求められます。

【方針】

- 用途地域内における空き地は、有効利用を促進するとともに、商店等に近く暮らしやすいという利便性を活かした良好な住環境整備と商業地の維持・活性化を図ります。

【課題】小森山ミニ工業団地や新館工業団地、用途地域東側に位置する準工業地域等、雇用を支える工業団地としてさらなる活用が求められます。

【方針】

- 完売した小森山ミニ工業団地に続き、1区画（1ha）が分譲中となっている新館工業団地への誘致を図ります。
- 準工業地域である中山川原地区について、土地の有効活用を図ります。

【課題】比内ブランド農業を支える優良農地の確保が求められます。

【方針】

- 農業振興地域制度の適正な運用に基づき、優良農地の確保を推進します。
- 基盤整備事業を計画的に進め、複合作物の作付が可能となる優良農地の確保を図ります。

2 もっと地域の力を活用する

【課題】人口減少等の影響で、祭りや地域行事に参加する若者が減少しています。古くから栄えた扇田地区の商店街の維持、さらなる活性化が求められます。

【方針】

- 扇田地区の市街地の活性化について関係者と協議し、賑わいを創出するための方策づくりを推進します。
- 大館北秋商工会と連携し、商店街における出店支援、創業支援を進めます。
- 夏祭り・ひない商人祭り等のイベントの支援に取り組み、地域の活力向上を図ります。

【課題】 郊外部等の農林業を支える地域は、地域コミュニティの維持や生活機能の確保等が困難になることが懸念されます。

【方針】

○農林業振興や景観・環境保全等の関係施策と連携するとともに、小さな拠点の形成について検討を進めます。

【課題】 南東部の農村集落等、居住空間が山地に近接し、土砂災害危険区域が点在しています。

【方針】

○居住空間と土砂災害危険区域が近接している箇所については、秋田県が行う土砂災害対策に基づき、危険箇所の周知に努め、安全な地域づくりを推進します。

【課題】 ふるさとキャリア教育や市民ワークショップを通して、地域づくりについて考える気運が高まり、これらの取り組みを継続・活性化することが求められます。

【方針】

○ふるさとキャリア教育や地域応援プランによる地域づくりを継続し、住民とのつながりを広げながら、地域について考え、行動する機会づくりを推進します。
○住民と行政が連携し、既存ストックの活用を進め、地域のことや大館の未来について気楽に語り、情報共有ができる場づくりを推進します。

3 もっと資源をつなげる

【課題】 古くから発展した地域であり、大日神社や扇田神明社、西木戸神社等、豊富に点在する歴史資源の有効活用が期待されます。

【方針】

○資源周辺の景観を守りながら、サイン整備等による資源のネットワーク化、QRコード付き標柱やリーフレットを活用したPR等を推進し、豊富な歴史資源の保全・活用を図ります。

【課題】 広大な田園や豊かな農村資源は、将来の就業の場や、都市と農村の交流により交流人口の拡大が見込まれる場として期待されます。

【方針】

○比内地鶏や大館とんぶり、しいたけ、葉たばこ等の比内ブランドを支える農地の保全を図るとともに、生産だけでなく加工や販売につなげ、就業の機会や交流人口の拡大を目指します。
○比内地域における産業・農業の周知を推進し、広く全国へ比内ブランドを発信していきます。

【課題】 個性的な景観を形成する達子森や米代川等、人々に親しまれる自然環境は、ふるさとの原風景として後世に受け継ぐことが求められます。

【方針】

○達子森や米代川等の環境を後世に受け継ぐため、景観や自然環境の保全・活用に取り組みます。

【課題】 ペットと楽しめる観光地として、地域の魅力向上や交流人口の拡大が期待されます。

【方針】

○ペットと泊まれる宿泊施設として整備したベニヤマ自然パークコテージを拠点とし、首都圏等のペット愛好家をターゲットに集客を図ります。

4 もっと機能をつなげる

【課題】 市民アンケートでは、現在は自家用車で移動する方の割合が高くなっていますが、高齢化に伴い運転が困難になる方が増加すると懸念されます。

【方針】

○公共交通に関する情報を提供するツールを作成しホームページで発信する等、利用者への周知を推進し、公共交通機関にアクセスしやすい環境づくりを行います。

○交通結節点における機能の向上を図り、公共交通による移動の利便性を高めます。

【課題】 市民ワークショップでは、郊外部におけるバスの運行本数が少ないことや、誰もが安心して利用できるバス停の整備に関する意見が挙げられています。

【方針】

○今後、行政だけでは公共交通の維持・運営が困難と予想されることから、地域と行政が連携し、多様な主体による交通サービスの導入について検討します。

○バス停周辺の整備、地域ボランティアと協力して待合所付近の除排雪体制を強化する等、待合環境の改善を図ります。

【課題】 扇田地区における都市計画道路の整備率の向上が求められます。

【方針】

○長期にわたって整備が進んでいない都市計画道路については、必要性や事業実現性を評価し、継続・変更・廃止について計画の見直しを進めます。

比内地域のまちづくり方針



1 土地利用がもっと充実する

市街地の利便性を活かし、用途地域内の空き地を有効に利用することで、良好な住環境の整備を促進し、商業地における賑わいの維持・活性化を図ります。

2 もっと地域の力を活用する

行事やイベントを通して地域内外の交流を深めながら、住民主体の魅力ある地域づくりを推進します。

3 もっと資源をつなげる

歴史資源や自然環境の保全・活用を進めながら、比内ブランドであるさまざまな産業を推進し、比内地域の魅力を広く発信していきます。

4 もっと機能をつなげる

主要な公共交通を確保することで、都市機能へのアクセスを維持するとともに、都市計画道路の見直し・評価を行います。

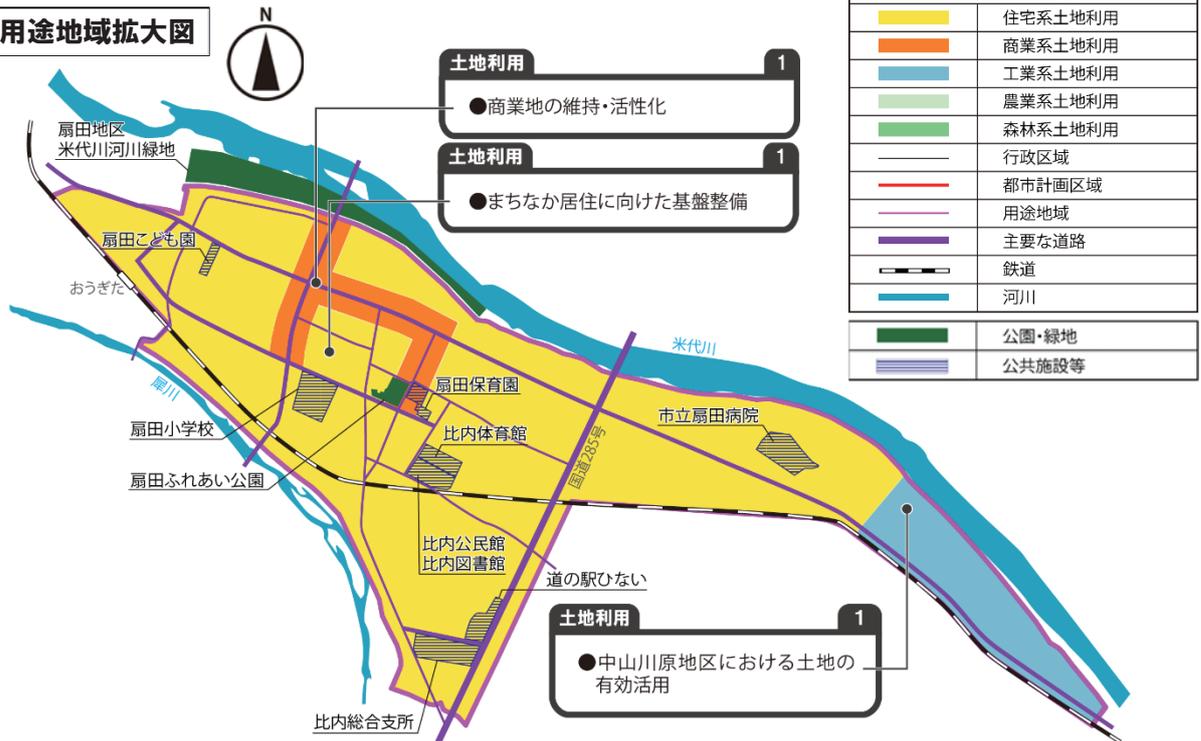
凡例	
	住宅系土地利用
	商業系土地利用
	工業系土地利用
	農業系土地利用
	森林系土地利用
	行政区域
	都市計画区域
	用途地域
	主要な道路
	鉄道
	河川

まちの拠点と連携軸	
	賑わい創出の拠点
	まちを支える工業拠点
	緑とふれあいの拠点
	観光・交流の拠点
	生活の支えとなる地域拠点
	地域連携軸

比内地域のまちづくり方針（拡大図）



用途地域拡大図



凡例	
	住宅系土地利用
	商業系土地利用
	工業系土地利用
	農業系土地利用
	森林系土地利用
	行政区域
	都市計画区域
	用途地域
	主要な道路
	鉄道
	河川
	公園・緑地
	公共施設等

コラム ～未来の日常をイメージしよう～

扇田地区を中心に都市施設や商業地が集積し、住民によるお祭りや催しが盛んで、豊かな景観と資源に恵まれた比内地域では、10年後にどのような暮らしをしているのでしょうか？
市民ワークショップで得られた意見を踏まえながら考えてみましょう。

- ・まずは住民自らが地域のいいところを知り、大切に思う気持ちを持とう！
- ・住民が自由に集まり、地域の将来について考え、語れる場所があるといいな
- ・比内地域だけではなく、周辺地域とも協力して魅力を高めていきたい

「他地域との交流をしながら、知れる！大館の未来を語れる！場所づくり」が実現できた未来における日常を、具体的にイメージします。

○みんなで語ることの楽しさを共有！

- ・ふるさとキャリア教育で地域づくりを学ぶ子どもたちとともに、大人もまちの未来について自由に語り合うことの楽しさを知っている。
- ・学校や各施設、インターネット等を通じた広い情報提供のおかげで、未来を語る場のことを誰もが知り、活用している。語る場では多くの情報が行き来し、扇田小学校の音楽堂で行われるミニコンサート等、イベントの開催をいち早く知ることができる。
- ・各地区のバスの待合所には語る場の情報や取り組みを掲示するスペースがあり、扇田地区だけではなく、地域全体に語る場を普及させている。

○既存ストックを活用し、自由に集まる場所を確保！

- ・行政と連携して、旧役場等の使われていない施設を借りる仕組みができており、気軽に集まる場が常にある。「こんな場所があるよ」等のアイデアも募集されている。
- ・施設を借りた際の清掃等、管理について、できることから住民主体で行っている。

○色々な地域と広く協力！

- ・十二所や大滝、上川沿地区等、地区を超えた取り組みが増えてきている。
- ・ベニヤマ自然パークは、ペットとのびのび過ごせる場としてペット愛好家たちの間で口コミが広がり、釈迦内地区の犬都記念公園ドッグランと連携した情報提供も行われている。

○地域の宝物がさらに輝く！

- ・とんぶり農家等、多くの農家や企業が子どもハローワークに参加し、大館で働くかっこいい大人の背中を子どもたちに見せている。そのおかげで、進学で市を離れる子どもたちも、市に戻ってきて働くイメージがしやすく、農家の後継者も増えている。
- ・全国各地で開催される大館アンテナショップでは、比内ブランドの特産品がますます人気で、比内地域の知名度がアップしている。
- ・たくさんの若者が地域の催しやお祭りに参加し、青若会の取り組みもさらに充実しており、他地域や市外から訪れる人からも元気な地域だと評判になっている。
- ・語る場では、地域の新たな宝物探しや、今ある資源の使い方に関するアイデアが常に出されている。「おもしろそう」、「それならできそうだ！」というアイデアについて、実現に向けて一歩一歩取り組む姿勢は、地域全体で広く共有されている。